♪講師＆演奏者紹介

Knut Schoch　クヌート・ショホ

江口　真紀子

クヌート・ショホ　（テノール）

故郷ハンブルクの音楽大学にてヴィルフリート・ヨッヘンス氏に師事、またアラン・シュペーア氏の歌曲クラスにて学ぶ。ジル・フェルドマン、イアン・パートリッジ、ハルトムート・ヘル各氏等によるマスターコースに参加、またジェイムズ・ワーグナー、２００５年からはマルグリート・ホーニヒの各氏の元、さらに研鑽を重ねる。中世から現代曲まで幅広いレパートリーを持っており、特にバロックからクラシックのオペラ、オラトリオ（モンテヴェルディ、カイザー、テレマン、モーツァルト等）を得意としている。中でも１８５０年以前に作られた音楽、バッハのカンタータやオラトリオ（エヴァンゲリスト）、ヘンデルとその同時代の作品における当時の演奏様式の再現に歌手活動の重点を置き、緻密に磨き上げられた演奏は常に高い評価を得ている。

また歌詞を重視する彼の演奏法により、彼の特に愛する古典及びロマン派の歌曲が一層の輝きを見せている。長きにわたって、ピアニストのヨハネス・デーブス、ヘニング・ルチウス各氏と共にクリーガーからベートーヴェン、そしてブリテンまで特徴のある歌曲プログラムを創り出している。ギタリストのカールステン・リンク氏と共に１９世紀初頭の音楽を主としたプログラムを（シューベルト：「美しき水車小屋の娘」を含む）、ルドガー・レミー氏等のフォルテピアノと共にシューベルトのツィクルスを発表、ピアニスト、ノーマン・シェトラー氏との度重なる演奏活動もまた重要な刺激を彼に与えている（プログラムは主にシューベルト、シュポア、シューマン）。
彼のコンサート活動、ソリストとしての出演はヨーロッパ各地だけでなく、アメリカ、アジアの主要なコンサートホールにてもソリストとして招待され出演。イヴォール・ボルトン、トーマス・ヘンゲルブロック、グスタフ・レオンハルト、ペータ・ノイマン各氏などの指揮者のもとで歌っており、その成果は多数のラジオまたはテレビの放送によって示され、１００を超えるCDによって収められている。

２００８年９～１０月、ピアニストのヘニング・ルチウスと共に来日し、東京・名古屋・大阪・京都・神戸・高知にてマスタークラス及びコンサートを行い好評を博した。続いて２００９年５月に再来日し、ソプラノのタニア・アスペルマイアーと共に、東京・大阪にてマスタークラス及びコンサートを行った。
１９９３年からハンブルク音楽院、２００８年１０月からブレーメン音楽大学にて教鞭をとる。２０１０年にはオーストラリア・キャンベラ国立大学で特別講師として招聘され、また１９９９年から２００２年までハンブルク音楽大学にて教授を務めた。

江口　真紀子　（ピアノ伴奏）

東京に生まれる。東京芸術大学声楽科卒業。２００７年よりドイツ・ハンブルクへ渡り、ハンブルク音楽院にて歌曲伴奏法／コレペティツィオン科に在籍。２０１０年演奏コース上級課程を審査員満場一致の最優秀の成績にて修了。エルンスト・ヘフリガー、ノーマン・シェトラー各氏のマスタークラスに参加。２００８年４月よりユンゲス・ムジーク・テアターにて音楽監督、またハンブルク室内歌劇場、タッシェンオパー・リューベック、ハンブルク・アンタレス歌劇場、そしてハンブルク州立音楽大学ユンゲン・フォールムにてもコレペティトゥアを務めている。
室内楽、また歌曲伴奏者として数多くのコンサートに出演しており、ハンブルク州及びロストック州における「ライブ・ミュージック・ナウ」奨学生にも声楽・室内楽ピアニストとして選出されている。また多彩な演奏活動に加え、後進の教育にも力を注いでいる。２０１２年にはパウル・ゲルハルト教会にて合唱団の指揮・指導にあたった。
これまでに、タニア・アスペルマイヤー、クヌート・ショホ、アンドレア・エディット・モア、クラウス＝ディーター・ユング、マーティン・シェベスタ、クルト・ヴィトマー、そしてマルグリート・ホーニヒ各氏（以上声楽）等のマスタークラスの伴奏ピアニストを務めている。２０１１年にはウィーン国立歌劇場にて、第１合唱指揮者トーマス・ラング、またソロレペティトゥア　スティーブン・ホプキンス各氏の元で研修生として研鑽を積んだ。